ＣＳＷの視点に基づく地域アセスメント

■ＣＳＷにおける地域アセスメントの視点

〇コミュニティオーガニゼーションやコミュニティワークでは、地域の状態を分析する時に「地域診断」という用語が使用されてきた。これは医学モデル的であり、地域の問題点が焦点化されがちであるが、コミュニティソーシャルワークでは地域が持つ力も重視するため、「地域アセスメント」としている。

〇地域アセスメントは多角的に行うことが重要であり、特に①地域概況、②社会資源、③生活ニーズの観点から把握し、さらにこれらは小地域と広域の双方の観点から整理していくことが求められる。担当圏域を持っている専門職は、自分が担当する圏域内だけでなく、担当圏域に暮らす人々の生活範囲を踏まえた地域アセスメントを行う必要がある。

〇地域概況の把握については、現状だけでなくこれまでの傾向についても目を向け、行政統計や郷土史等の活用が有効である。また、住民の理解と協力を求める場合には、住民にとって分かりやすい資料の作成も求められる。

〇社会資源の把握については、公共施設、保健福祉の公的サービス、住民組織、生活関連産業等、地域生活支援において活用しうるものが含まれる。そうした社会資源と連携するためには、相手の業務や活動を知るだけでなく、担当者や連絡方法の把握も必要である。

〇生活ニーズの把握については、個別ニーズを把握した上で、それは地域の中でその人や家族だけの問題なのか、あるいは同様なニーズを持つ人々がいるのかを明らかにしていくことが重要である。これは「課題の共通性の検証」であり、個別対応で済む問題なのか、地域全体として取り組んでいく問題なのかが見えてくる。検証作業では多様な社会調査の方法が求められる。

■ ■ ■ ワークシート２：グループ討議の進め方　■ ■ ■

　このシートの上表では、地域の社会資源を見る視点を広げていきます。この事例に記載されていない社会資源の活用・開発の可能性に気づくことがねらいであり、グループで話し合いながら検討してきます。まずは、この家族が「活用している」社会資源を整理していきましょう。次に、事例に「あるが活用していない」社会資源を整理してみましょう。その上で、この家族のニーズに対応していくために、事例中の社会資源以外にどのようなものがあったら良いか話し合い「確認・開発したい」欄にまとめていきましょう。また、この地域のストレングスについても考えてみましょう。

　このシートの下表では、個別ニーズを地域ニーズとして捉えるための視点を養います。そのため、一人ひとりのニーズについて、地域内で同様なニーズを持つ人々がどれ位いるのかを確認するための方法を考えていきます。方法には、①既存データの活用、②ヒアリング調査、③アンケート調査、④座談会など、多様な社会調査技法の活用を考えてみましょう。